

2017 年度 FD 広報プロジェクト活動計画

FD 広報プロジェクト・リーダー 小屋 多恵子

1 活動目的

- FD 活動とその意義の認知度を高める。
- 学生・教職員に対して、学習支援関連の情報を提供するとともに、コンクールを通じて FD に対する関心を喚起する。
- 教員に対して、授業改善に役立つ情報や資料を提供する。

2 活動計画

(1) FD 学生の声コンクール・FD 川柳の実施

- 昨年度は声コンに加え「FD 川柳」枠を設け、学生から教職員まで広く募集した結果、応募総数が増加した。今年度も昨年度と同様に実施し、多くの学生・教職員に FD への理解と授業改善への関心を高めることを目指す。今年度は「第 10 回 FD 学生の声コンクール」と「第 2 回 FD 川柳」。

※応募件数 2014 年度 66 件、2015 年度 53 件、2016 年度声コン 30 件・FD 川柳 136 件

- 昨年度同様キーワード式のテーマを提示し、指定したキーワードのいずれか、あるいは両方から連想する大学での学びや学外での活動、自らの成長に関わった経験などを自由に表現してもらう。なお、今年度声コンのキーワード（時間・可能性）は声コン新聞（2017 年 3 月発行）に掲載済み。
- FD 川柳については特にテーマを設定していないが、定めている声コンと混同し、テーマの中で川柳を考えなければならないという誤解が生じている可能性があるため、今年度はその点を明確に広報していくことにする。
- 受賞後の座談会で、重複受賞の是非を検討して欲しい、学部単位での告知などきめ細やかな広報活動を行うべきといった声が寄せられたことから、今年度はこの点について検討・実施を行う。
- 6 月までに募集要項の作成・公表、9 月末に募集締め切り、10 月に審査、12 月に授賞式・座談会のスケジュールで進めていく。認知度をあげ、幅広く学生を集めるという目的から、7 月の授業改善アンケート実施時期と秋学期開始時期に重点的に告知を行いたい。
- 広報活動としては、例年 L ステゼミを開催していたが、昨年度は特別プログラムで実施した。同プログラムを通じて応募する学生が少なからずいるため、今年度も開催する方向で検討していく。
- 例年通り、受賞作品と受賞者座談会の成果は、タブロイド版新聞形式で印刷し配布する。昨年度までの配布状況により、発行部数の再検討を行う。（2015 年度 16,000 部、2016 年度 15,000 部発行）

(2) 学習支援ハンドブックの編集、活用事例の収集等

- ・ 昨年度改定できなかった英語表記や見出し等を含め、よりよいハンドブック編集のために内容の改訂を行っていく。春学期中に追加・削除項目の洗い出しを行い、写真撮影の дайタイの日程を決めておきたい。
- ・ 残部の把握や利用状況により適切な発行部数を決定する。
- ・ 教員や学生による実際の活用事例等を収集し、広く利用してもらえるようなアイデアを検討していく。
- ・ 他大学での学習支援ハンドブックの取り組みを調査し、活用できる取り組みは参考にしたい。

(3) FD 広報活動の充実化

- ・ FD 推進センターNewsletter を例年通り 6 回程度発行する。FD の活動を広く知ってもらうためにプロジェクト関係者への取材やアカデミックサポート・サービスにおける講師紹介など、記事を依頼または執筆して学内の FD 活動情報の共有を図る。
- ・ 昨年度 FD 川柳の受賞作品を Newsletter で紹介することにより、次回作品応募への意識を高めていく。
- ・ 他のプロジェクトと協同・連携をはかりながらして広報活動を進めていく。例えば、授業改善アンケートの回答率をあげるための効果的な広報活動を思考し、推進していく。

3 メンバー

岩田和子（法）、小林ふみ子（文）、坂上学（経営）、川口悠子（理工）、飯野厚（経済）、客夢璐（学務部教育支援課）

2017 年度大まかな流れ

	FD 学生の声コンクール・FD 川柳	学習支援ハンドブックの編集等	Newsletter
4 月		・ 追加・削除項目の洗い出し ・ 写真撮影の大まかな予定決定 ・ 他大学の取り組み調査 ・ 残部や利用状況の調査	・ 年 6 回程度 の発行
5 月			
6 月	・ 募集要項の作成と公表		
7 月	・ 特別プログラムの開催？ ・ 広報		
8 月			
9 月	・ 広報 ・ 募集締め切り		
10 月	・ 審査	・ 執筆と加筆修正	
11 月		・ 執筆と加筆修正	
12 月	・ 授賞式と座談会	・ 執筆と加筆修正	
1 月	・ 声コン新聞作成	・ 校正	
2 月	・ 声コン新聞作成・校正	・ 校正	
3 月	・ 声コン新聞校正・公表		

以上